記者発表資料

水資源機構

令和７年４月８日
独立行政法人水資源機構
木津川ダム総合管理所

川の水位上昇にご注意ください

～ 高山ダムフラッシュ放流で河床をリフレッシュ～

独立行政法人水資源機構木津川ダム総合管理所が管理する高山ダムでは、４月から梅雨や台風に備えて貯水位を下げていきます。この貯水位低下操作を利用して、次のとおりダム下流の河川環境改善のための放流（フラッシュ放流）を実施します。

令和７年４月１５日（火）
放流（増量）開始９：３０　～　放流（増量）終了１４：００（予定）

今回実施するフラッシュ放流は、ダムから放流する水を一時的に増やし、石などに付着した泥や藻類等を剥離させるなど河床をリフレッシュすることで、河川に生息する魚などの生物にとって良好な環境へと改善を目指す取り組みです。

ダム下流の河川では、ダムのフラッシュ放流により徐々に水位が上昇し、木津川の恋路橋地点（南山城村）及び有市潜没橋地点（笠置町）でそれぞれ最大約１．２ｍの水位上昇が見込まれます。さらに木津川下流でも１５日夜から１６日明け方にかけて水位上昇が見込まれますので、河川を利用される場合は十分注意してください。

当日は各ダムからのゲート放流開始に合わせた警報（放送、サイレン）を行うとともに、河川巡視を実施します。

取材にお越しの場合、また当日の状況写真を希望される場合は事前に下記のお問合わせ先までご連絡ください。

発表記者クラブ：学研都市記者クラブ

お問合わせ先：木津川ダム総合管理所　高山ダム管理所
所長　米澤（よねざわ）

電 話：０７４３（９４）０２０１

高山ダムの下流河川環境に配慮したフラッシュ放流について

1. 目的

フラッシュ放流は、ダムから流下させる水を一時的に増やすことにより、下流河川内の攪乱を起こし、石などに付着した泥を流すものです。また、藻類等を剥離させ藻類の再生を促します。これらより、河床をリフレッシュさせ、河川に生息する魚などの生物にとって良好な環境への改善を目的とした取り組みを行っています。

○ 過去のフラッシュ放流実績

- 高山ダム　平成 14 年度～　　（計１８回実施）

2. フラッシュ放流の概要

①ダム管理の現況

洪水の恐れの少ない秋から冬の間、水利用のため満水近くまで水を貯め、高い水位を維持していますが、洪水期が始まる6月 16 日までに、梅雨や台風に備えて洪水調節容量を確保するため、洪水貯留準備水位まで貯水位を低下させる予定としています。

今回のフラッシュ放流は、この水位低下操作の一環として行います。

R7.4.1 の高山ダムの様子

水位低下後のイメージ（R6 年６月の状況）

②フラッシュ放流の実施予定日時

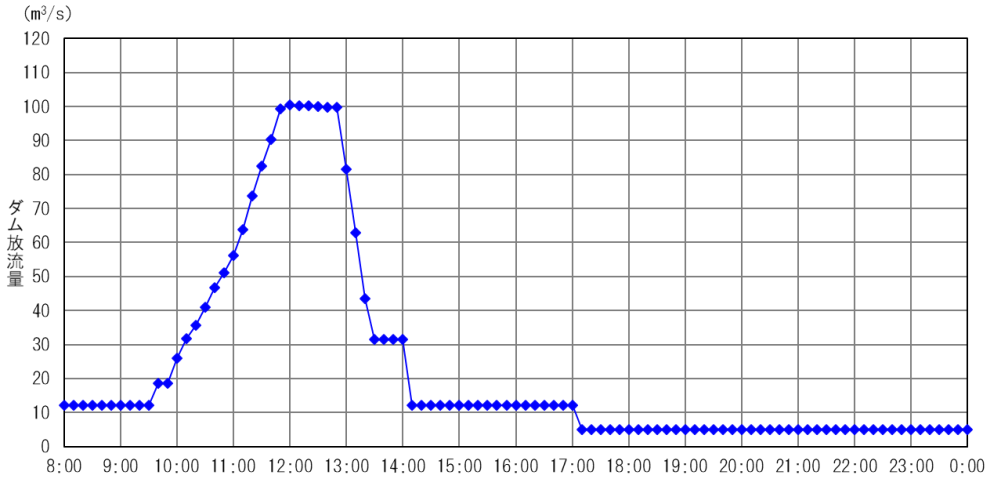
日時：令和７年４月１５日（火）

９時３０分～14 時 00 分（予定）

最大放流量

最大毎秒約１００立方メートル

放流量が最大となる時間　１１時 50 分から１２時 50 分頃



高山ダムフラッシュ放流時のダム放流量（計画）

※フラッシュ放流予定日前後の気象条件等によっては、フラッシュ放流を中止する場合があります。

※布目ダムでも実施予定でしたが、現在貯水位が低下しており、今年度は実施しません。

③フラッシュ放流時の放流の方法（洪水吐からの放流）

下流河川で急激な水位変化を及ぼさないため、２時間ほどかけて緩やかに増量し、最大放流量を１時間ほど保持したあと、緩やかに減量します。

また、施設の点検を併せて行うため非常用洪水吐から放流を行う予定です。

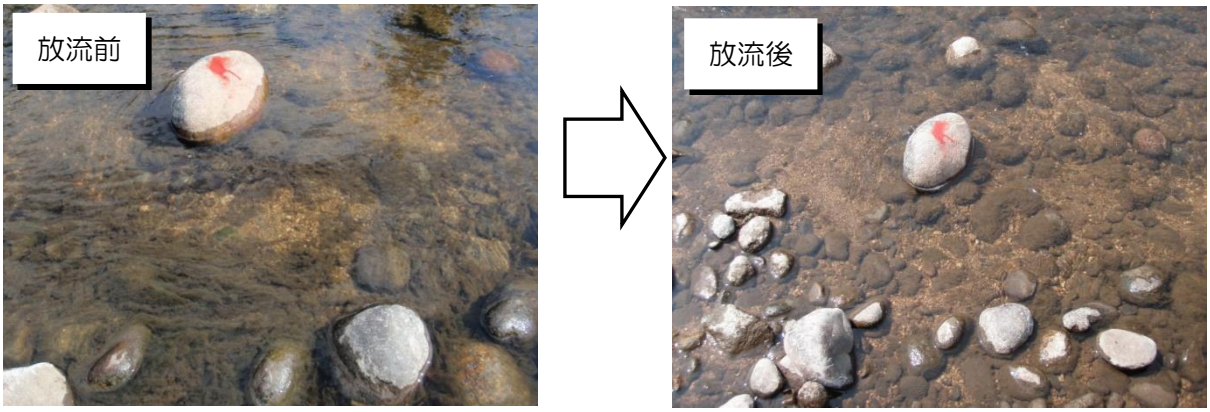
高山ダムの通常の放流状況
（利水放流管と高山発電所から放流）

高山ダム非常用洪水吐ゲートからの放流状況
（令和５年４月のフラッシュ放流時の事例）

④フラッシュ放流で期待する効果

過去の実績では、フラッシュ放流を実施する前は、石の表面が藻類等の付着物に覆われていますが、フラッシュ放流後は、付着物が流され、石の表面が明瞭に確認できます。なお、奈良女子大学片野教授と連携して効果把握のための調査を進めています。

このように河川環境の改善を目的としており、下流河川では、フラッシュ放流の後に漁業組合による稚鮎の放流が予定されています。



３．フラッシュ放流当日の河川利用に関するお願い

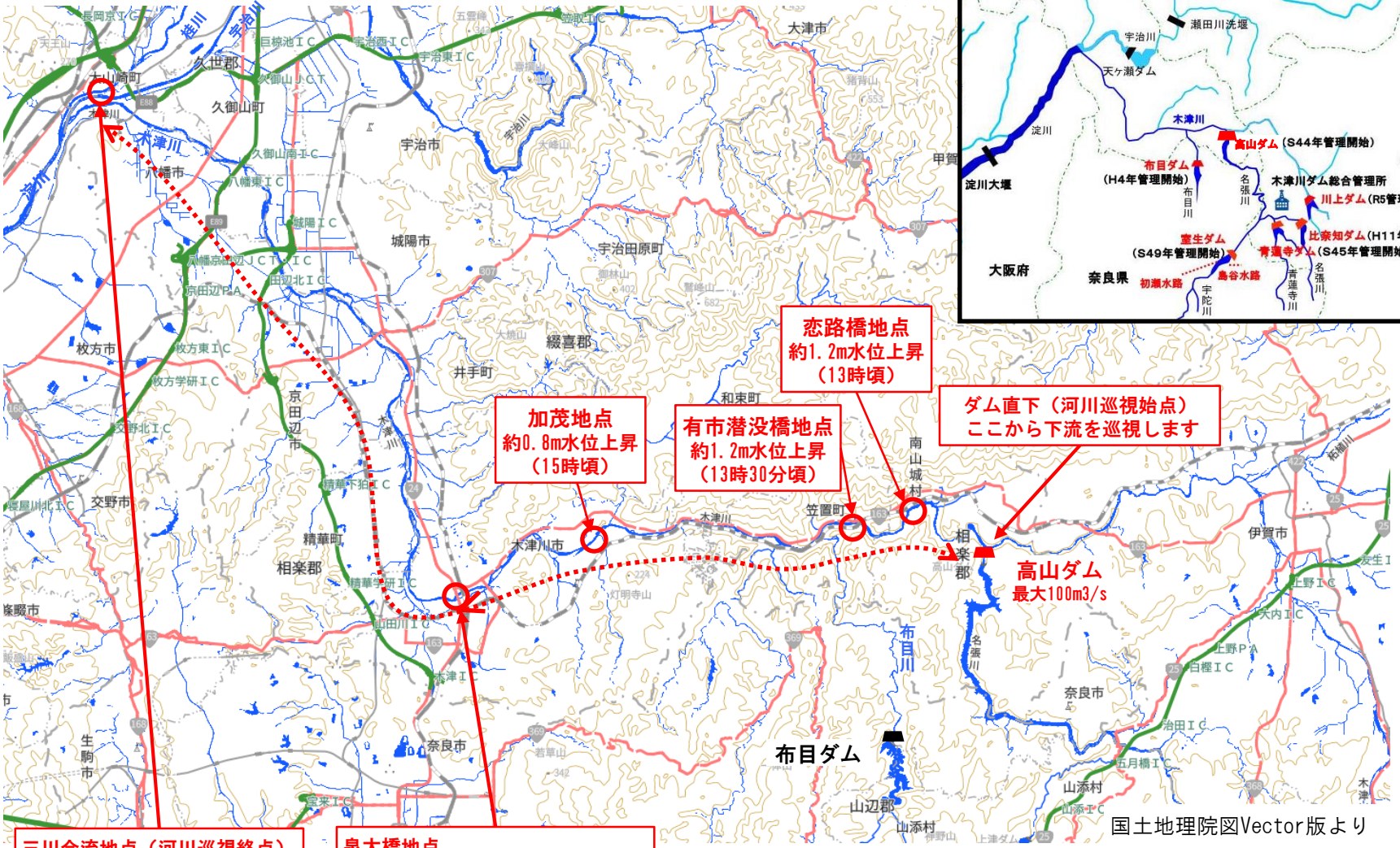
今回のフラッシュ放流によって、ダム下流の木津川では、水位の上昇が予想されますので、河川の利用に際してはご注意ください。なお、フラッシュ放流時は放流開始前に放流警報（放送、サイレンを鳴らします。）・河川巡視を行い、河川利用者の方に河川から出ていただくことをお願いする場合がありますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

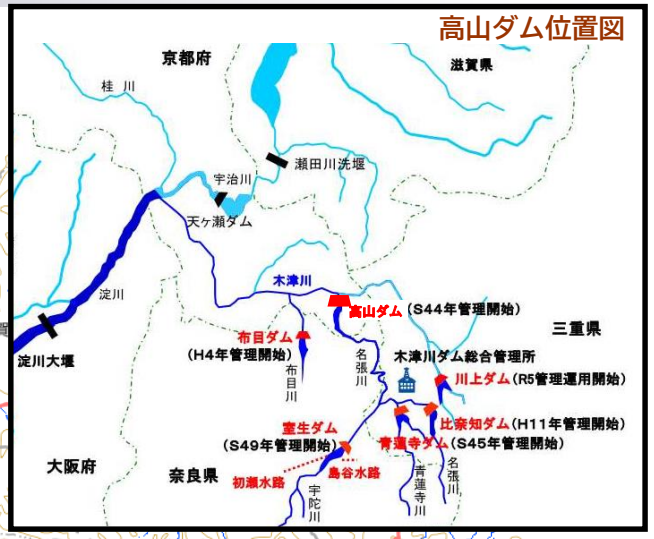
- 南山城村恋路橋地点（木津川）　：最大約１．２m水位上昇　（１３時頃）
- 笠置町有市潜没橋地点（木津川）　：最大約１．２m水位上昇　（１３時３０分頃）
- 木津川市加茂地点（木津川）　：最大約０．８m水位上昇　（１５時頃）

４．フラッシュ放流の見学等についてのお願い

下流河川では水位が上昇するので、見学される場合は、ダム管理所付近の安全な場所からご覧いただくようお願いします。なお、高山ダム堤体付近は道幅が狭く駐停車する場所が限られているため、管理所周辺の駐車場をご利用ください。

高山ダムフラッシュ放流に関連する各地点





国土地理院図Vector版より

高山ダムの概要

■ダムの諸元

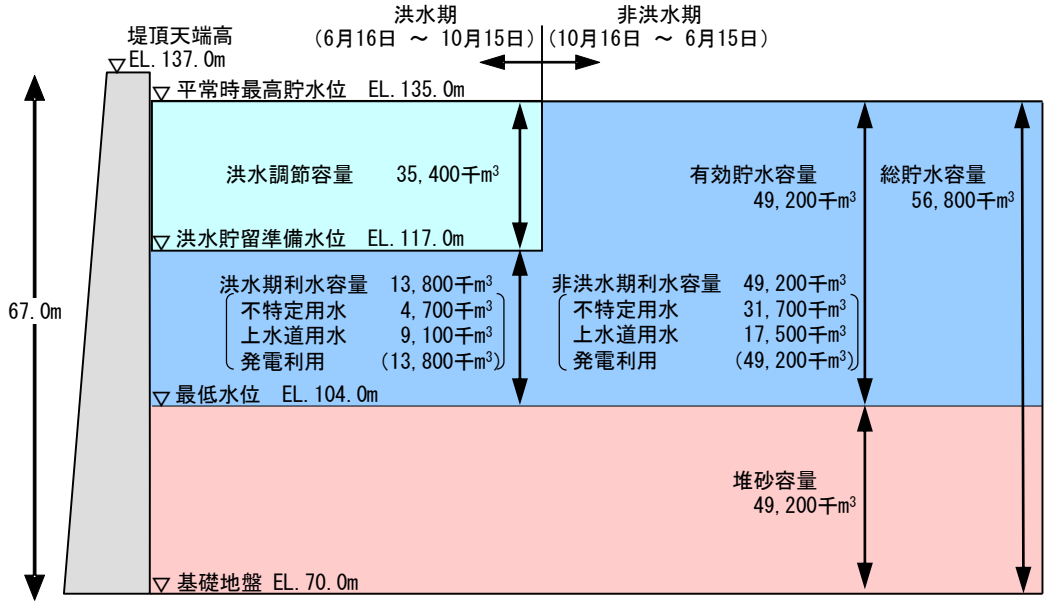
ダム型式　：　アーチ重力式コンクリートダム
堤 体 積　：　約213.9千m^3
堤　　高　：　67.0m
堤 頂 長　：　208.7m
湛水面積　：　2.6km^2
流域面積　：　615.0km^2
管理開始　：　昭和44年8月

■ダムの目的

1. 洪水調節
　下流河川での洪水被害を軽減することを目的に、ダム地点における計画高水流量3,400m^3/sのうち1,600m^3/sをダムに貯留し、1,800m^3/sをダムから放流する。

2. 流水の正常な機能の維持
　下流河川の既得用水の補給等、流水の正常な機能の維持を図る。

3. 水道用水
　水道用水として阪神地区に最大5.0m^3/sを供給する。

4. 発電
　関西電力が設置した高山発電所で、最大出力6,000kWの発電を行う。（最大使用水量14m^3/s）

■貯水池容量配分図